

厚労科研 辻井班（発達研修開発）

1) 6. LD特性のアセスメントツール

金沢大学人間社会研究域
吉村 優子

LDについて

医学的診断名は

学力[学習能力]の特異的発達障害

Specific Developmental Disorders of Scholastic Skills

限局性学習症/限局性学習障害

Specific Learning Disorder

教育用語としては

学習障害 Learning Disabilities

「読み書き」や「計算」など特定の領域で学習の遅れがみられる状態。
明らかな感覚入力や運動の障害、学習環境や教え方、知的水準が学習
困難の原因ではない。

幼児期の言語の問題

言語知識 (language)

音韻に関する知識、
文字に関する知識、
言葉の意味、文法 など

言語理解の困難
(単語や文章を理解する能力)

言語表出の困難
(単語や文章を使って、考えやメッセージ
を作成する能力)

言語理解ー表出困難
(単語や文章の理解と表出の両方に困難
さがある)

はなしことば (Speech)

言語知識が言語音に運動変換され
たもの。
口唇や舌などの発声発語器官を用
いる

構音障害(機能性)
(発声発語器官の形態・機能に異常がない
にもかかわらず、音の誤りが習慣化してい
る)

吃音
(ことばがスムーズに出てこない、どもること)

幼児期のLDの特徴

言語知識 (language)

音韻に関する知識、
文字に関する知識、
言葉の意味、文法 など

言語理解の困難

(単語や文章を理解する能力)

言語表出の困難

(単語や文章を使って、考えやメッセージ
を作成する能力)

言語理解ー表出困難

(単語や文章の理解と表出の両方に困難
さがある)

はなしことば (Speech)

言語知識が言語音に運動変換され
たもの。
口唇や舌などの発声発語器官を用
いる

構音障害(機能性)

(発声発語器官の形態・機能に異常がない
にもかかわらず、音の誤りが習慣化してい
る)

吃音

(ことばがスムーズに出てこない、どもること)



学習障害 (Learning Disorder)



読字障害

- ・文字と音の変換が苦手
特に特殊音節
- ・単語のまとまりの理解が難しい→「り」「ん」「ご」
- ・聴覚記憶が苦手
- ・言葉を音として記憶しながら読む、話すのが苦手
- ・文字がにじむ、ぼやける、ゆがむ
- ・逆さになる(鏡文字)
- ・点描画のように見える
- ・読むスピードが遅い

書字の障害

- ・文字が行や枠から大きくはみだす
- ・鏡文字を書く
- ・年齢相応の漢字を書くことができない
- ・似ているが細かい部分に違いがある文字を書く
- ・助詞の使い方を誤る
- ・句読点をつける位置を間違える

※ 読字障害と併存するケースが多い

算数の障害

- ・簡単な数字や記号を覚えるのに時間がかかる
- ・数の大きい、小さいがよくわからない
- ・繰り上がり、繰り下がりにつまずく
- ・簡単な計算でも指を使うことが多い
- ・計算のルール理解が定着しない
- ・暗算が苦手なため、簡単な計算ミスが多い
- ・九九を覚えるのに時間がかかる
- ・文章問題が苦手、理解できない
- ・図形やグラフが苦手、理解できない

※ 読字障害や書字障害と併存するケースも多い

LDの特性のアセスメントの必要性

- 読み書き障害の特性は、就学前には目立ちにくい一方、早期の発見や支援が重要。
- 読み書き困難とは、全く読めない状態ではなく、「読み書きを**正確かつ流暢にできない**」状態を指す。
- 適切なアセスメントを行うことで、子どもの特性に合った支援を検討したり、実施することに役立てることが可能となる。

単一のツールからだけでなく、学校の授業における読み、書き、計算の達成状況やミスの仕方などを観察して特性を把握していくことが必要

LD特性のアセスメント

文字への意識のアセスメント

読み書きのアセスメント

算数のアセスメント

知的機能・
認知機能

視知覚機能

言語能力

本日紹介するLD特性のアセスメント・ツール

文字への意識

- CLASP… 5～6歳。読み書きに関する質問（5項目）。観察者評価式

読み書き

算数

- STRAW… 小学1年生～高校3年生。読み書きの正確性と流暢性、計算（加減乗除）を評価。個別検査

読み書き

- URAWSS II…小学1年生～中学3年生。読み書きの速度を評価。

CLASP (Check List of obscure disAbilitieS in Preschoolers)

子どもの様子に関する観察シート

- 対象年齢 5-6歳
- 幼稚園、保育園、巡回相談の先生が回答
- 所要時間:5分程度
- 就学前に顕在化にしにくい特性(吃音、チック症、限局性学習症(LD)、発達性協調運動症)の可能性を評価する
- 吃音症状(4項目)、チック症状(5項目)、読み書き(5項目)、運動(5項目)の計19項目
- 「全くない」「ごくまれにある」「時々ある」「しばしばある」「常にある」にチェックする

STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査

Screening Test of Reading and Writing for Japanese.

読み書き

算数

- 正確性と流暢性の評価 -

- 対象年齢 小学1年生から高校3年生
- 文字の読み書きの正確性と流暢性を学年平均と比較することができる

流暢性の評価

ひらがな、カタカナ（単語・非語）、文章の音読

正確性の評価

漢字、ひらがな（1文字、単語）の音読

漢字、ひらがな（1文字、単語）の書取

ひらがな、カタカナ、漢字のどの表記から練習すればよいかの指標が得られる



画像：インテルナ出版

STRAW-R 改訂版 標準読み書きスクリーニング検査

Screening Test of Reading and Writing for Japanese.

読み書き

算数

素早く正確に呼称する力(自動化能力)の評価

RAN (Rapid Automated Naming)

絵と数字の名前を連続してできるだけ早く言う

所要時間や誤反応をみる

5歳以上に適応可能

計算力の評価

加減乗除の問題(各6問)を実施し、正答数をみる

(小学1年生は加減算のみ、各群の中で2題以上誤った場合は、その群を中止しても構わない。)



画像: インテルナ出版

宇野 彰・春原則子・金子真人・Wydell, T. N. 2017

改訂版 標準読み書きスクリーニング検査 インテルナ出版

小学生の読み書きの理解 URAWSS II ウラウスツー

Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren

- 対象年齢 小学1年生から中学3年生
- 文字の読み書きの速度が、学習に大きく影響する

書き課題

書かれた課題を3分間視写し、1分間の書き速度を算出する

読み課題

書かれた短文を一定時間黙読し、内容理解を問う問題に回答する
読み速度と内容理解を評価する

小学生の読み書きの理解 URAWSS II ウラウスツー

Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren

読みの介入課題

音声による補助(読み上げ)によって、理解度が上がるかどうか

書きの介入課題

ワープロ入力、課題用紙の拡大、持ちやすい筆記用具を用いる など、
書字の介入によって速度に変化がみられるかどうか

ワープロ入力や読み上げの支援の効果を検証し、支援の方策に
結びつくような結果の解釈を行う

まとめ:LD特性のアセスメント・ツール

文字の意識のアセスメント

・CLASP

読み書き・算数のアセスメント

・STRAW

・LDI-R (行動面、社会性も含む)

・特異的発達障害診断・治療のためのガイドライン
(観察者によるチェック表は、読み書きのみ)

読み書きのアセスメント

・URAWSS-II

・多層指導モデル (MIM) (アセスメントと指導)

知的機能

・認知機能

WISC-4、K-ABC-II

など

視知覚機能

フロスティック視知
覚検査、Rayの複雑
図形 など

言語能力

絵画語彙検査
(PVT-R) など